

第7学年 ふるさと科学習指導案

生徒 男6名 女8名 計14名
授業者 教諭 浅沼幸直

1 題材名 地域産業体験（ワカメ体験学習）

2 題材の目標

地域産業について体験的に学習することを通して、三陸の海の豊かさや素晴らしさを学び、地域の良さへの理解を深める。

3 題材について

(1) 生徒について

吉里吉里地区は地域の子どもたちに大きな期待を寄せており、ふるさと科の学習が伝統を子どもたちに伝える場となっている。生徒は1学期に郷土芸能伝承活動に意欲的に取り組み、郷土芸能発表会では3種類の郷土芸能を地域に披露した。また、8月に行われた吉里吉里祭りにも多くの生徒が参加するなど、ふるさと科の学習を通して地域の活動に参加しようとする気持ちが高まっている。

本題材の学習においても、吉里吉里の特産品であるワカメの養殖から販売までの体験を主体的に行わせることによって、郷土の良さを感じさせ、郷土への愛着心を高めていきたい。

(2) 題材の指導と系統性について

ふるさと科の3つの柱のうち、本題材は主に「地域への愛着を育む学び」を深めるものとして位置付けられる。1学期に小中合同で実施した郷土芸能伝承活動では、伝統芸能を通して地域への愛着を深めた。地域産業に関する学習では小学部5年時に林業体験、6年時に新巻鮭作りに取り組んできた。本題材も吉里吉里地区で長く行われている産業を体験することによって地域への理解と愛着を深めることのできるものであり、また自らの仕事に誇りを持って励んでいる地域の方の話や仕事をする姿に触れることで生き方学習にもつながる学びを展開することができるものとなっている。

4 題材の学習内容

学年	月	時数	内容
7年	11月	1	ワカメ体験学習についての事前学習(本時)
7、8年	11月	2	種の巻き付け
7、8年	2月	4	収穫、ボイル、塩蔵
7、8年	2月	6	製品化作業(芯裂き、袋詰め)
9年	4月		ワカメ販売体験(修学旅行にて)

5 本時の指導(1/13時)

(1) 目標

ワカメの特徴やワカメの養殖について学び、今後の体験学習に主体的に取り組む態度を育てる。

(2) 研究との関わり

<視点3>ねらいに沿った学習及び振り返りの在り方について

本時の授業を通して分かった事や、今後の体験学習にどのような事を意識して進めていきたいかを自分の言葉でまとめる。

(3) 本時の評価規準

評価規準	指導の手立て
地域の特産について理解を深め、これからの学習に主体的に取り組む気持ちを持つことができる。(記述・発言)	地元にいれば当たり前だと思っていた地域の特産が、外部からは評価されているものだという助言をしながら、考えを深める支援をする。

(4) 展開

段階	活動内容	指導の手立てと留意点 (◎評価)
導入 10分	1 問題提起 修学旅行でのワカメ販売の様子 の様子を見せる。 2 課題設定 3 予想 課題に対する予想を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本題材のゴールを見せると共に、なぜそれほどの人気を集めたのかという疑問から本時の課題を導入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>吉里吉里のワカメは、何がすごいのか考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・出てきた予想は板書し、「他のワカメと何がちがうのだろう」等と問いを返し、様々な考えが出るように支援する。 ・講師の倉本修一さんを授業者が紹介し、本題材の学習のために、本時の講師をはじめ多くの方々が協力してくれていることを理解させたい。
展開 25分	4 ワカメの特徴 ワカメの分布や品種、部位 5 ワカメの養殖方法 ワカメの養殖を、1年のサイクル で紹介する。 6 吉里吉里のワカメ養殖の現状 a. 生産量、市場での評価 b. 種苗育成技術の高さ c. 地域の人々とワカメ養殖の関 わり	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドで学習した情報で板書で残した予想を検証し、生徒が主体的に課題の答えに迫れるよう促す。必要に応じて授業者が講師に話題をふり、追加の情報を提供する。(品種を保護するために県外への持ち出しをしていないこと、品質向上のための手間を惜しまないことなど) ・bとcについては講師の肉声から、吉里吉里でワカメの養殖に携わることへの誇りを感じ取らせたい。
終末 15分	7 まとめ 8 振り返り 振り返り用紙への記入 発表 9 講師へのあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の答えを自分の言葉でまとめることで、主体的に学習に関わる気持ちを高めたい。また、筆が進まない生徒へは個別に声をかけ、自分の言葉で授業を振り返ることができるよう支援する。 ◎地域の特産について理解を深め、これからの学習に主体的に取り組む気持ちを持つことができたか。 ・わかったこと、友だちの考えから感じたこと、今後自分で取り組みたいことなど、学習の振り返りをさせる。 ・本学習が講師をはじめとする保護者や地域の協力で成り立っていることに感謝し、地域産業を学ぶことの意義を感じさせ、これからの体験学習に主体的に取り組む気持ちを持たせたい。